

不審者出没のお知らせ

1 誰もいない住宅をねらった、県外からの泥棒がふえているそうです。

避難所にも、様々な方がいらしゃいますので、「罪作り」にならないよう、金品等の保管は心がけましょう。



2 夜間、若い婦女子の一人での行動(トイレ・ちょっと車まで等)は大変危険です。二人組や三人組で動きましょ



性被害・性暴力・DVの被害に遭わないために

一人は危険！複数で行動を！
子どもから目を離さない！
暴力を受けたら相談を！

※周りの目と声かけで被害をなくしましょう

被害に遭ったときの相談機関

- 性暴力被害者のためのサポートセンター ゆあさいどくまもと
☎096-386-5555
- 熊本県女性相談センター(DV相談) ☎096-381-7110
- 熊本県女性総合相談室 ☎096-355-2223
- 熊本県警察本部レディース110番(24時間対応)
☎0120-8343-81 または 096-384-1254

無料
秘密厳守



益城町

避難所の運営課題：ペットの災害対応

避難所に生活をする住民が固定化してきて、生活の場として環境改善をするタイミングでペットの問題が顕在化する
⇒避難所運営訓練およびマニュアルに対応を明確化する

「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」が過去の災害の検討を経て「人とペットの災害対策ガイドライン」として改訂

※ガイドラインは全国の都道府県及び市町村、関係省庁、動物愛護管理関係団体等に配布



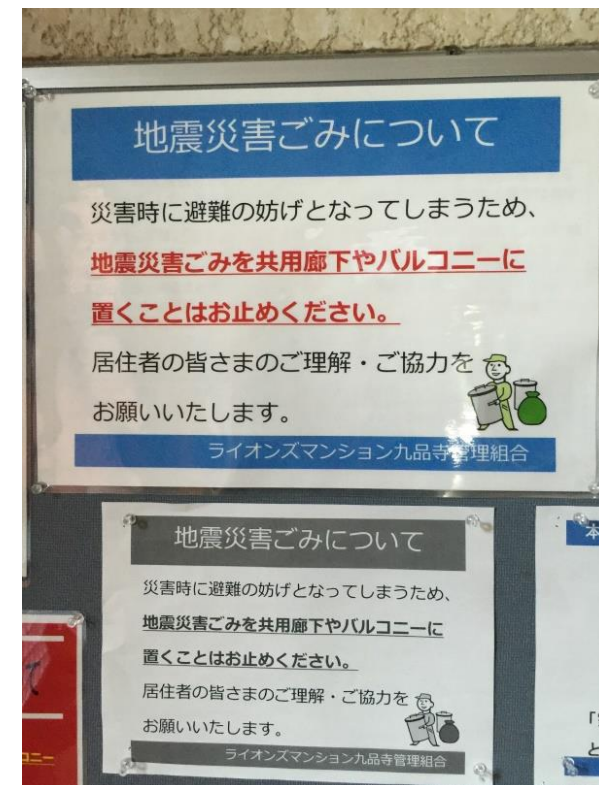
住民とともに行う安全な環境づくり

震災時のごみ出しのルールを決めておきましょう

◆ごみ回収が遅れる・回数が減る

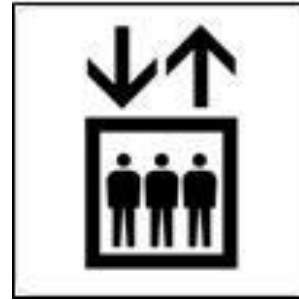
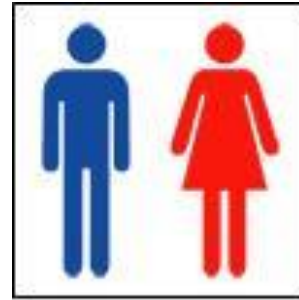
⇒通常の対応では集積場所がごみであふれる

⇒震災時に特化したごみ出しのルールを決める(生ごみ・汚物の処理や消臭方法について)



- ①環境(段差、隔離、設備の使い勝手、医療機器用非常用電源等)
- ②情報発信(メッセージボード、鈴、筆談等)
- ③食事(宗教、アレルギー、流動・離乳食等)
- ④生活(着替え、おむつ替え、祈り、常服薬)
- ⑤支援者(相談者)連絡リスト
- ⑥外国人(翻訳アプリの活用、テキスト作成)

災害時要配慮者は訓練に参加し、使いやすい避難所にしていく



仮設トイレの運用（掃除や防犯、段差、雨への配慮）



↓ テント型トイレ



避難生活での衛生対策（設備の設置と利用ルール）



- ✓ 仕事などで決められた時間に入れない人がいる
- ✓ 男女別なので介助が必要な人が異性だと入れなくなる
- ✓ すべての避難所に設置されるわけではないので長蛇の列
- ✓ 避難所のお風呂・シャワーの設置・民間風呂施設の耐震化等の検討

避難所の運営課題：生活に必要な設備の設置方法

- ・洗濯機や手洗い場の給水および排水に頭を悩ます。
- ・その設備の調達先に四苦八苦する
- ・レンタルか購入か、適正な価格か等あやふやなままに設置して後から問題になる



利用のルールを決めておかないと住民同士のトラブルになる



避難所の運営課題：ペットの災害対応

避難所に生活をする住民が固定化してきて、生活の場として環境改善をするタイミングでペットの問題が顕在化する
⇒避難所運営訓練およびマニュアルに対応を明確化する

「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」が過去の災害の検討を経て「人とペットの災害対策ガイドライン」として改訂

※ガイドラインは全国の都道府県及び市町村、関係省庁、動物愛護管理関係団体等に配布



自治会が日頃から備えておくべきもの

- ① LED投光器 ソーラーパネル付蓄電池 ヘッドライト
- ② トランシーバー(または無線機) ビブス 腕章
- ③ 災害用浄水器 貯水槽(タンク) 台車
- ④ 炊出セット(調理器具、食器含) 燃料 ポリタンク
- ⑤ 救助資材 応急手当品 AED 拡声器
- ⑥ エアーテント ブルーシート カセットガスヒーター
- ⑦ ライティングシート 筆記具 タブレット 充電電池
- ⑧ 災害用トイレ 抗菌剤 消臭剤 ペーパー 他

地区防災計画を作しましょう

平成25年6月「災害対策基本法」が改正「地区防災計画制度」が創設（H26年4月1日から施行）

①平常時

- ・防災訓練、避難訓練（情報収集・共有・伝達訓練を含む）
- ・活動体制の整備
- ・連絡体制の整備
- ・防災マップ作成
- ・避難路の確認
- ・指定緊急避難場所、指定避難所等の確認
- ・要配慮者の保護等地域で大切なことの整理
- ・食料等の備蓄
- ・救助技術の取得
- ・防災教育等の普及啓発活動

②発災直前

- ・情報収集・共有・伝達
- ・連絡体制の整備
- ・状況把握（見回り・住民の所在確認等）
- ・防災気象情報の確認
- ・避難判断、避難行動等

③災害時

- ・身の安全の確保
- ・出火防止、初期消火
- ・住民間の助け合い
- ・救出及び救助
- ・率先避難、避難誘導、避難の支援
- ・情報収集・共有・伝達
- ・物資の仕分け・炊き出し
- ・避難所運営、在宅避難者への支援

④復旧・復興期

- ・被災者に対する地域コミュニティ全体での支援
- ・行政関係者、学識経験者等が連携し、地域の理解を得て速やかな復旧・復興活動を促進

・消防団、各種地域団体、ボランティア等との連携

★誰が
★何を
★どれだけ
★どのようにすべきか
を地区の特性に応じて計画を作しましょう。

ご聴講ありがとうございました。

マンション・地震に 備えた暮らし方

How to live in apartments providing against earthquake.

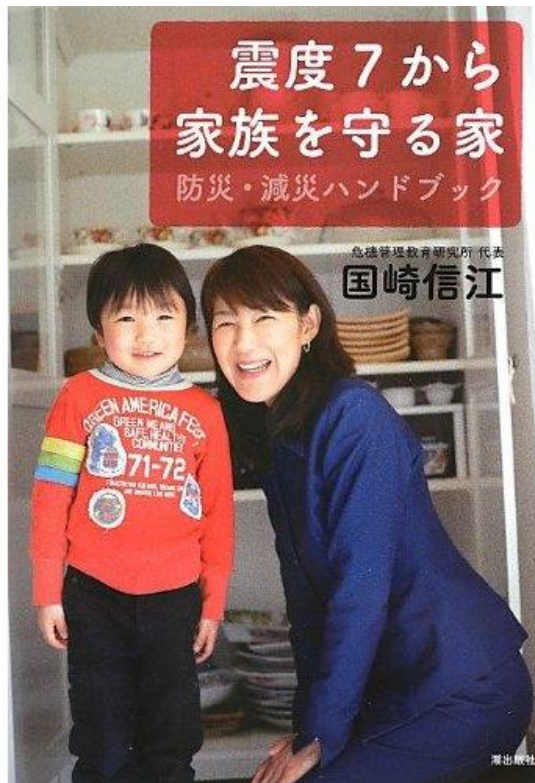
国崎信江(危機管理教育研究所 代表)
株式会社つなぐネットコミュニケーションズ◎著



地震防災の
教科書
E! Publishing
Bousai book
Series



つなぐネットコミュニケーションズ



震度7から 家族を守る家 防災・減災ハンドブック

危機管理教育研究所 代表
国崎信江

潮出版

潮出版



決定版

巨大地震から 子どもを守る 50の方法

危機管理アドバイザー
国崎信江
十歳から子どもを守る会

ブロンズ新社

ブロンズ新社

危機管理教育研究所

危機管理アドバイザー 国崎 信江

・ <http://www.kunizakinobue.com/>